

日本経済の現状と課題

法政大学大学院客員教授
翁おきな 邦くに 雄お

- * 2年前の日本経済の姿を再確認する
- * 高齢化と人手不足の行方
- * 激増する外国人労働者に見る変化
- * ドイツの経験から何を学ぶか
- * どうなる保護主義と経済摩擦
- * 80年代の日米貿易摩擦という前例
- * 米中貿易摩擦の根底は覇権争い
- * 挫折した異次元緩和の試み
- * そもそもインフレ政策目標とは何か
- * 両刃の剣のフォワードガイダンス
- * 13年の政府との共同声明に回帰すべし



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は2回目になりますが、法政大学の翁先生においでいただきました。翁先生は日銀を出られた後、二つ目の職場ということで今法政大学におられますが、皆さんご存じのように昔、東洋経済の週刊誌で岩田規久男さんと論争を繰り広げられました。かなり話題になったことがございます。そういう意味では、マネーサプライを増やせば全てがよくなるみたいなことがつい最近もございました。それから、さっきも控室で話題になりましたが、安倍首相があるうにか出口戦略を語ったりしまして、いったいこの日本の金融政策はどうなるのか皆さんもご心配かと思えます。そういう意味でもう一度原点に戻って日本経済の現状と課題ということで今日

2年前の日本経済の姿を再確認する

はしっかりと話がお話が伺えると思います。それでは翁先生よろしくお願いたします。（拍手）

翁 たいだいまご紹介にあずかりました翁でございます。

今日は「日本経済の現状と課題」ということでお話します。どういってお話を考えているかと申しますと、今、金融政策に重点を置いてお話しするようなイメージで言っていた話ですけれども、2年前の11月、こちらで講演する機会を与えていただきました。そのとき日本経済についてお話ししたので、まず、その後2年たってどういう具合にその景色が変わってきたかについてお話ししたいと思います。もち